

平成28年5月18日、政策秘書課職員に話をした内容です。

自分を売れ！

私が、商社に新人社員として入社したとき、指導役の上司から、「商品は売らなくていい。自分を売れ！」と言われました。会社名や商品名で覚えてもらうのではなく、個人名を覚えてもらうことが、仕事をしていく上で大切だと教えてもらいました。

営業で、もうこれ以上回る先が思いつかないときでも、上司からは「とにかく外周りをして来い」と言われました。

市職員も同じことが言えると思います。

いろいろな市民と知り合い、自分の仕事とは直接関係のない人とも付き合うことで、「〇〇課の人」ではなく、個人の名前で覚えてもらえるようになります。そうすれば、何課に異動になっても仕事がしやすいはずです。

この話を部課長たちにすると、「自分達が若いときは、そういう仕事の仕方をしてきた。でも、今の子どもたちはできない」と言います。「今の子どもは…」と済ましてしまうのではなく、管理職には、若い職員と一緒にまちに出て、外に出る楽しさを教え、歩きながら長久手のまちづくりの歴史を話し、市民と話す姿を見せ、若い世代を育ててほしいとお願いをしています。

職員は、インターネットを通じて、世界や日本で、今、何が起きているか知っています。でも、今日、市内でどんなことが行われているか、市民がどんな活動をしているか、どこで孤立死が発生したか、市民はどんなことに困っているかは知りません。机に座ってパソコンに向かっているだけでは、長久手のことは、わからないのです。市役所を飛び出して初めて、まちのことを知ることができるのです。

とにかくまちに出ることです。しかし、ただやみくもに出るのではなく、「多くの市民と知り合いたい」「〇〇をやりたい」という想いを持って出ることが大切です。高浜市長が自転車通勤をしているという新聞記事を読みました。市内をくまなく走れる自転車は、市民との交流の手段であり、昼食時も自転車で出かけ、知り合いには手を挙げてあいさつをし、現場の確認に市内を駆け回っていると、その記事には書いてありました。

「首長と職員は違う」と言う意見も聞こえてきますが、「市民と知り合う」「現場を知る」という目的は、首長も職員も何ら変わらないはずで、そこに思いがあるかどうかの違いだけだと私は思います。

～市長の話を聞いて～

私は、これまで、仕事でお世話になった方に対して、自分が部署を異動すると、連絡するのを遠慮したり、縁遠くなってしまったりすることが多かったように思います。それは、「〇〇課の職員」という立場で仕事をし、相手の方と私個人として関わってこなかったからだ、今回、市長の話を聞いて感じました。

市長からは、「自分を覚えてもらうには、市役所の名刺とは別にもう一枚、別の名刺を持つといい」とアドバイスをもらいました。確かに、記憶に残る人は、仕事とは関係のない名刺をもう一枚、持っていて、もう一枚の名刺から会話が広がることの方が多いように思います。

もう一枚の名刺を持つとは、何も「団体に所属する」とか「自ら起業する」ということだけではないでしょう。自分が今、興味を持っていることや「思い」を肩書にすることもアリでしょう。

しかし、今、自分にそうした「思い」があるのか…。そこからスタートです。